



若者が選択したい産業と 農業の見える化

自立可能な農業・農村地域の実現に向けて



新福青果







天職と思えば大地は人を作れる

感謝

ご恩

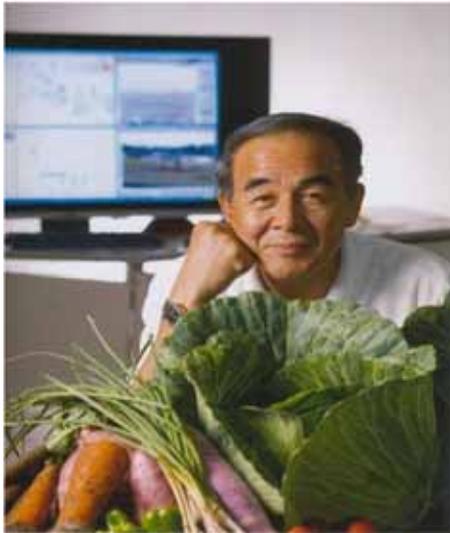
ご縁

出会い

農 業 生 産 法 人

有限会社 新福青果

会社概要



社 名 : 農業生産法人 有限会社新福青果
所在地 : 宮崎県都城市
代表者 : 新福 秀秋
設 立 : 昭和62年6月(平成7年農業生産法人)
資本金 : 5115万円
敷地面積 : 直営農場313ヶ所 契約農家470戸
従業員 : 72名(グループ会社含む)
外部協力会社: 3社(カット野菜工場含む)

人に安心と健康を

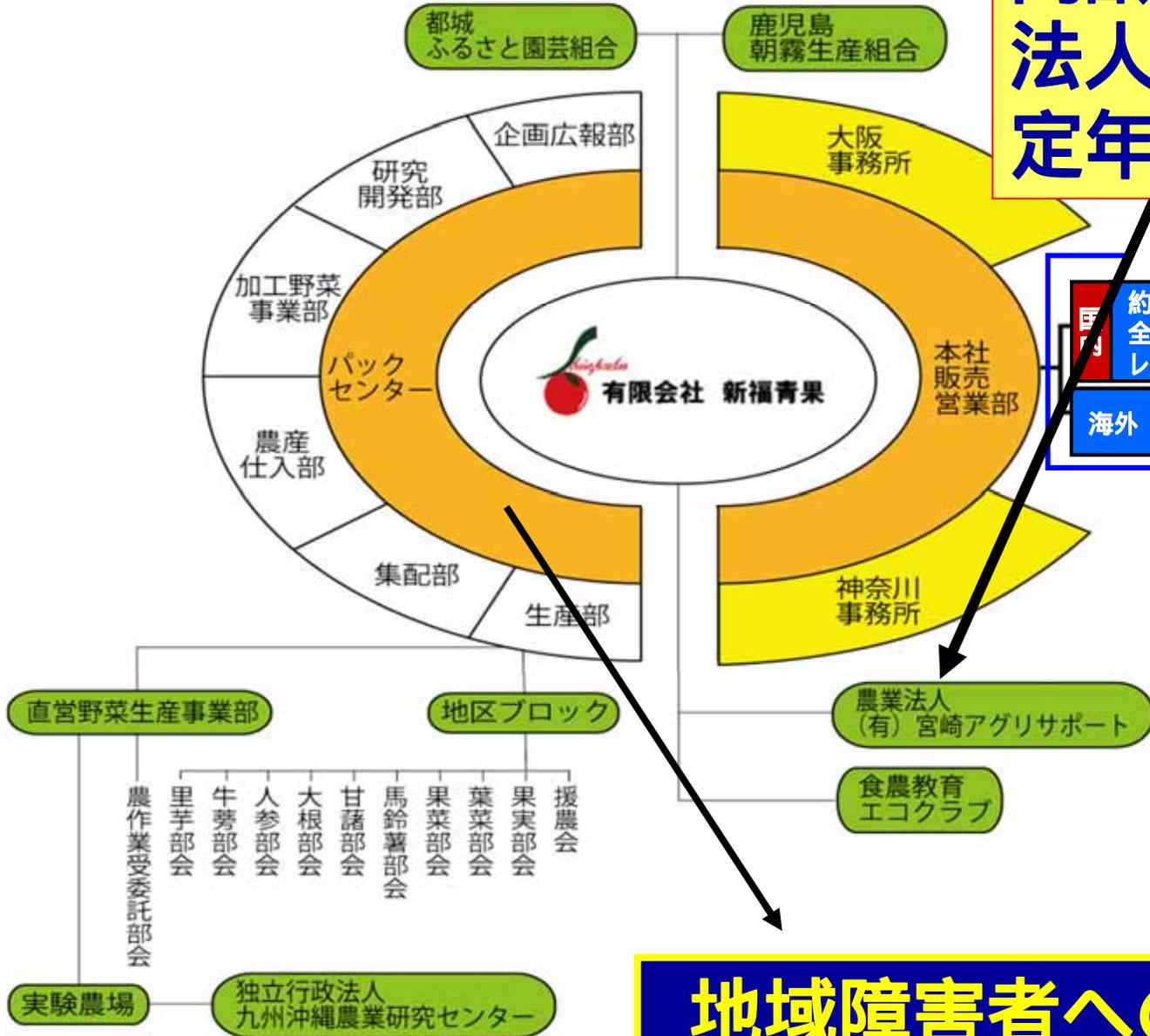
土に愛と感謝を

新福青果の3つの柱

1. 安全・安心への取組み
2. 地域農産物の有効利用
3. 地域への貢献「人・もの・かね・情報」

法人化による内部の変化と実践

高齢者専用農業法人「55歳以上～定年無」



取引先

約 87社
全国の生協、量販店
レストランetc

海外 2カ国

< 事業 >

- 農業生産
- 農産加工
- 農産物卸売
- 農産物輸出
- 研修 / のれん分け事業
- 6次産業化連携体

地域障害者への業務委託

主力商品

自社栽培品目	
さといも 6月～10月石川早生 11月～5月ヤマト芋 	ごぼう 長さ80～90cmのじっくり育てたごぼうです。 
さつまいも(黄金千貫) 畑直送品にて鮮度が魅力、甘み有り 	さつまいも(宮崎紅) 
赤芽大吉 	にんじん 畑直送品にて鮮度が魅力、甘み有り 
キャベツ 畑直送品にて鮮度が魅力、甘み有り 	ホーレン草(加工用) 栽培者は元々長年の専業で生産してましたので土作りからしっかりとした技術を蓄積しております。 
かぼちゃ ほくほくして美味しい。畑直送品にて鮮度が魅力 	ラッキョウ 

牛蒡や人参などの根菜類や
キャベツやほうれん草なども栽培

圃場の様子



日本にも企業型の農業は根付くか？

農業「地域」も少子高齢化とグローバル化の時代を一層向かえ、**農業者自らの意識改革**を実行しないとこのままでは生き残れない。

効率的に経営をやらないと**食っていけない**。生き残れない。

農業が事業として成り立たない。

先ず、日本の地域農業の現状と戦後の農業改革「農地法等」が現在のニーズ・時代背景等により「歪み」が発生している。

二番目に開発 - 生産 - 卸「加工・小売」 - 消費の構造改革が取り残されて**20世紀型分業**が通用しなくなっている。私は「作る人」・「私は売る人」・「私は食べる人

」
所謂、「私は作る人」、「私は食べる人」の間に溝があり、ここにストレスの不安と安心・安全への**生産者と消費者の一方通行の疑問**が発生してきている。

制限が多くグローバルな産業構造になっていない等により、**断片化された流通システム**を変えなければコスト及びロス「時間・エネルギー及び環境負荷等」削減はやがて限界にくる。

なぜ、農業生産法人？



新福青果

個人及び家族経営としての限界とデメリット

経営規模拡大を計画

個人経営の限界(経営がどんぶり勘定)

新しいスタイルの農業経営(法人経営の必要性)

- ・ 地域農業環境を守る : 後継者と面的農地が必要
- ・ 将来の不安 : 事業の発展及び継承が必要
- ・ 条件整備 : 人・物・金の計画・管理が必要
- ・ 賃金と報酬 : 労働配分と報酬の明確化が必要
- ・ 対外的な信用力 : 特に金融機関の信用・強化が必要
- ・ 雇用の安定化 : 年間雇用型が必要

ブランドづくりと労働環境・福祉の整備

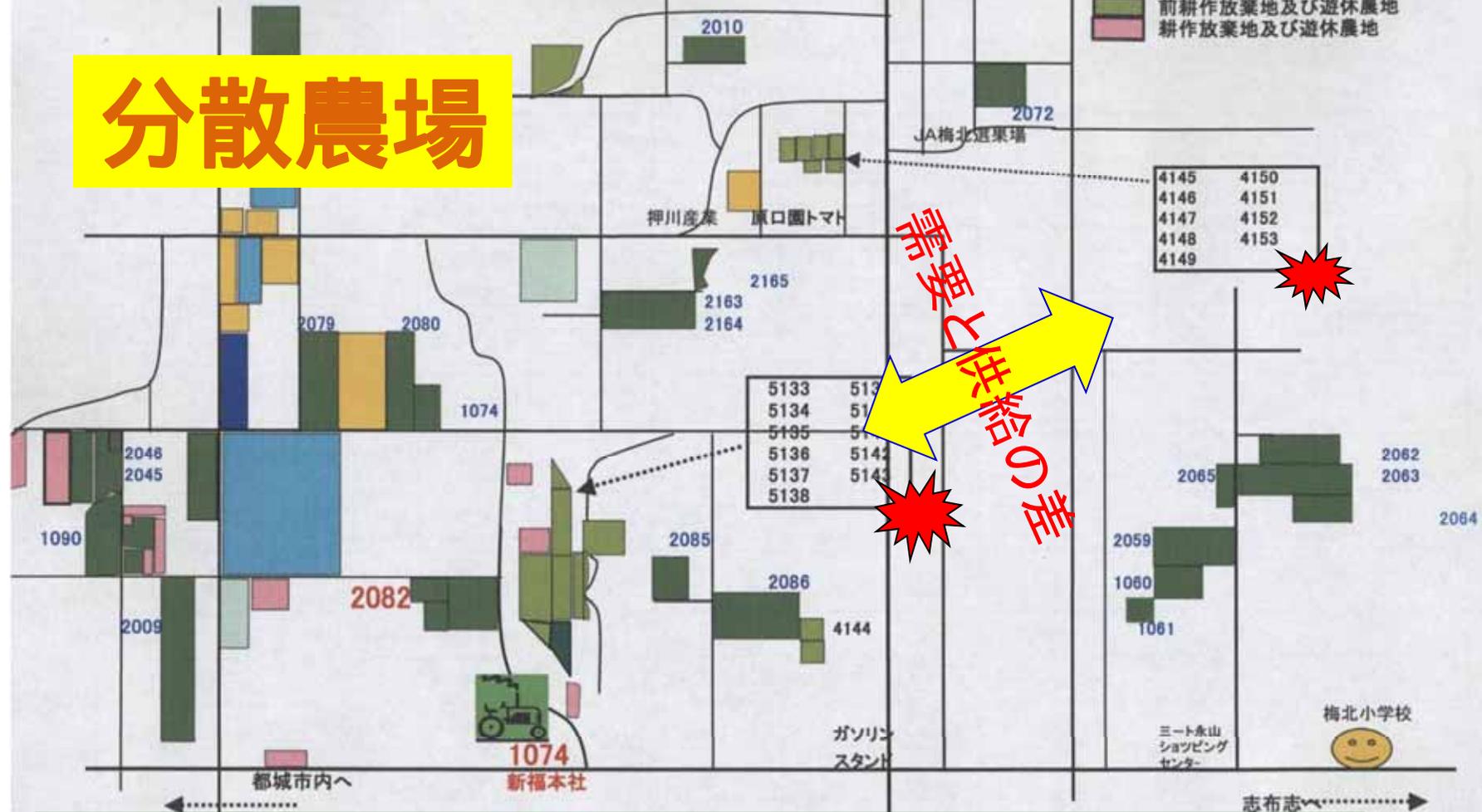


グローバルGAP導入

2. 営農部農地—改

分散農場

- 茶……農業生産法人
- 畜産…農業法人
- 野菜…農業生産法人
- 前耕作放棄地及び遊休農地
- 耕作放棄地及び遊休農地



農地と非農地の差

時代背景と農地法・制度の矛盾と疑問

虫食い状態の国土利用と農地

現状の農地利用とコスト削減の壁・限界

移動に関する費用

平成19年度

逆風の中の経営

「燃料・資材等の高騰及び気象異常等」

								円
	1日						4620	
1週間	6日				12	207	27720	
1ヶ月	24日	7分	4		3	6048	100.8	1 1100
1年	288日		4	3	3	72576	1209.6	
1組織当たり								2661120
大区分行程		3行程						7983360
組織		2組織						15966720

1 正社員・パート・アルバイトの総経費平均

肥料・農薬・資材・機械・燃料等～

農業の産業化 「点 → 線へ」



- 従来の農業は、経験やノウハウを中心とした営農(生産)活動
- 農業の産業化には経験やノウハウだけでは、無駄やリスクが発生
- 経営の継続が出来ない事態も発生(経営の安心・安全)

3つ(生産、経営、顧客)の見える化が重要!!

生産の見える化

技術を共有し共に品質を
上げる事が重要
『生育情報の共有』等



経営の見える化

農業もM&Aを行う時代
正確な経営情報の整理と
積極的な外部公開が必要
『内部統制』等



顧客の見える化

消費者ニーズを反映した生産
「できた物売る農業から
売れる物を作る農業」が必要
『マーケティング』等



【効果 : 経営支援】

企業スタイルの確立ができ、
毎年同じ収量・品質維持に役立っています。



- 企業独自の栽培ノウハウやルールを確立し、全社員で共有。
- 栽培ノウハウやルールに基づいたアドバイスにより、ミスが低減。

以前



こんな状態でした

従来は・・・

- 同じ収量・品質を確保するための**独自ノウハウ・ルールが定まっていない**
- ノウハウやルールに基づいた栽培が出来ていない

現在

栽培ノウハウ・ルール抽出と実践



作業の振り返りからノウハウ・ルールを抽出

ノウハウ・ルールに基づいた作業候補を提示

実績・ナレッジポイント情報

- 栽培後に作業実績を振り返り、独自ノウハウやルールをナレッジ化。
- ナレッジに基づいた、行うべき作業の候補を提示し、作業計画に反映。

【効果 : 人材育成】



「背中を見て育て」ではなく、「皆で共に育つ」風土になりつつあります。

- 写真を使った情報共有による、技術の継承。
- 成功例や失敗例の蓄積することで、反復学習が可能に。
- 蓄積した情報を皆で振り返ることで、悩みや疑問もともに共有。

以前



こんな状態でした

従来は...

- 「目」で見た状況を「口」だけで伝えるため、情報を正しく伝えるor理解することが難しい
- 教わった情報を反復して確認出来ないため、すぐに忘れてしまう

現在

見回り支援と見回り結果検索



写真+
位置情報



- 写真を使った情報共有と技術指導
- 写真 + コメントで情報蓄積

【効果 : 現場支援】

現場のミスが減り、安心・安全で良質な野菜の生産に役立っています。

- 作業実績と農薬DBにより、計画時に散布可否を確認できる。
- 適切な作業を過去データや制限からアドバイス、収量アップに貢献。
- 圃場で見たい情報を確認できるので、事務作業時間を軽減。

ヒューマンエラー防止

栽培リスクの削減

以前

2回じゃない？
事務所帰って
調べるかなぁ？



この圃場に 農薬は
もう一回散布しても
大丈夫だったっけ？
過去に3回くらい
撒いた気が...

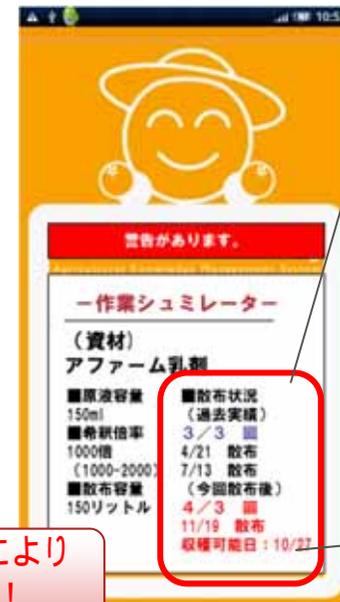
こんな状態でした。

従来は...

- 農薬散布後にミスが発覚し、売り物にならないことがあった。
- 従事者の違いによる、作業のダブリや抜けがあった。
- 圃場に出てから情報がわからずいちいち事務所に帰って調べていた。

現在

圃場毎の作業履歴の参照



■散布状況
(過去実績)
3 / 3 回
4/21 散布
7/13 散布
(今回散布後)
4 / 3 回
11/19 散布
収穫可能日 : 10/27

散布・前作業履歴により
現場判断を支援！

- 自動(GPS)で圃場を特定し、関連情報を表示
- 過去の作業履歴を元に現場判断を支援

【効果 : **その他(ワークスタイルの変化)**】
 自然にワークスタイルが変化しはじめた。

- 毎週末定時に営農担当者全員によるプロジェクトを使ったミーティングが習慣化。
- 富士通や県試験場の入った月1回の定例会で、早期に軌道修正。
- 毎収穫後の振り返り会にて良い点・悪い点を明確化し次作に生かせる。

以前



こんな状態でした

従来は・・・

- 日々の作業に終わり、収穫後に振り返る事をしていなかった。
- 情報共有不足やスキル不足で無駄やミスが発生していた。

現在

ワークスタイルの変革



- 従業員一人一人の**責任感が向上**
- より良い視点・より良い手法を**議論して決定**。
- DATAの大切さを感じ、**入力が積極的**に。

IT導入による効果



経営支援

- ・多数の農場に対する生産計画の立案が容易になりました！
- ・企業スタイルの確立ができ、毎年同じ収量・品質維持に役立っています。
- ・複数生産者の情報を集約し、安定供給が可能になりました。

人材育成

- ・把握しづらかったコストが算出でき、従業員の原価意識を高まりました。
- ・「背中を見て育て」ではなく、「皆で共に育つ」風土になりつつあります。
- ・仮説を持って栽培し、反省を次作に活用できる人材育成に役立っています。

現場支援

- ・収量アップに繋がる適期作業の実現や迅速な現場判断に役立っています。
- ・現場のミスが減り、安心・安全で良質な野菜の生産に役立っています。

その他

- ・取り組みを通じて、自然とワークスタイルが変化しています。
- ・作業振り返り会にて良い点・悪い点を明確化し、次年度に生かせてます。

農業のフランチャイズ化

- 生産から消費を結ぶバリューチェーン構築
- 農業経営のパッケージ化

with IT

with IT

グローバルな視点

- 国内・海外の農場を日本から監視、コントロール

with IT

2011年2ヶ国の農場での試験開始予定

農業で使いやすいIT (ダブルティガク 低額、定額)

- 圃場でストレス無いネットワーク環境
- 圃場で使いやすい端末
- ITも農地と同様に所有から利用へ

目指すべき農業の姿

「新3K農業」

カッコ良くて、稼ぎがあって、感動がある

